

令和4年度 文部科学省委託事業  
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」  
地域活性化のための農福連携人材育成事業アンケート  
(北海道内高等学校農業科対象)

2022年11月

学校法人西野学園 札幌心療福祉専門学校

## アンケート集計にあたり

学校法人西野学園札幌心療福祉専門学校では、文部科学省委託事業「地域産業中核的人材養成事業」（6ヵ年事業）において、「農福連携」による地域活性化をテーマに高等学校と専修学校の連携による先取り履修を取り入れた高専一貫カリキュラムの編成・構築を目的とした「地域活性化のための農福連携人材育成事業」を実践しています。

北海道では「農業人口の減少と高齢化」「障がい者雇用の受け皿不足」が大きな課題であり、農福連携を進めていくために「農業の知識や技術を持つ福祉職」が求められています。この事業は、これらの諸課題を改善するために、社会福祉士資格と農業知識をあわせ持つ人材を育成し輩出することを目的として展開しています。

そこで、今後の方向性を検討するにあたり、農業関連学科に在籍する高校生を対象とした農福連携に関する意識についてのアンケートを実施しました。設問は、農業分野に進学した理由や課題、福祉分野に関するイメージなどを把握するため、【農業関連の学びについて】【農業分野の課題や魅力について】【社会福祉に関する興味・関心度について】【農福連携に関する認知度・関心度について】の4つの観点から構成されています。

このアンケートは、農福連携人材育成事業コンソーシアムで連携いただいている北海道教育庁学校教育局高校教育課のご協力により令和4年9月26日（月）～10月21日（金）に実施、回答は任意ではありましたが、最終的に北海道管内で農業科を設置する高等学科12校520名の生徒から貴重なご意見をいただくことができました。

今回のアンケート結果を今後の教育課程編成に活かし、農業の知識や技術を持つ福祉専門職育成に役立てていく所存です。

ご協力いただいた北海道教育庁をはじめ、高等学校関係者の皆様、ご回答いただいた生徒の皆様には厚く感謝申し上げます。

高等学校別 学年別 男女別 アンケート回答数

高等学校名	学年	男性	女性	合計
北海道旭川農業高等学校	2年生	53	51	106
	3年生	50	77	127
	合計	103	129	234
北海道岩見沢農業高等学校	2年生	26	7	34
	3年生	16	2	18
	合計	42	9	52
北海道余市紅志高等学校	2年生	20	8	28
	3年生	9	3	12
	合計	29	11	40
北海道富良野緑峰高等学校	2年生	4	12	16
	3年生	7	10	17
	合計	11	22	33
北海道標茶高等学校	2年生	16	9	25
	3年生	3	4	7
	合計	19	13	32
北海道留寿都高等学校	2年生	4	5	9
	3年生	15	8	23
	合計	19	13	32
北海道更別農業高等学校	2年生	24	7	31
	3年生	-	-	-
	合計	24	7	31
北海道真狩高等学校	2年生	2	5	7
	3年生	15	6	21
	合計	17	11	28
北海道大野農業高等学校	2年生	3	4	7
	3年生	6	8	14
	合計	9	12	21
北海道遠別農業高等学校	2年生		2	2
	3年生	7	2	9
	合計	7	4	11
北海道深川東高等高校	2年生	2	1	3
	3年生	-	-	-
	合計	2	1	3
北海道ニセコ高等学校	2年生	-	-	-
	3年生	2		2
	合計	2		2
高等学校不明	2年生	2	1	3
	3年生	1	1	2
	合計	3	2	5
合計 (全12校)	2年生	156	112	268
	3年生	131	121	252
	合計	287	233	520

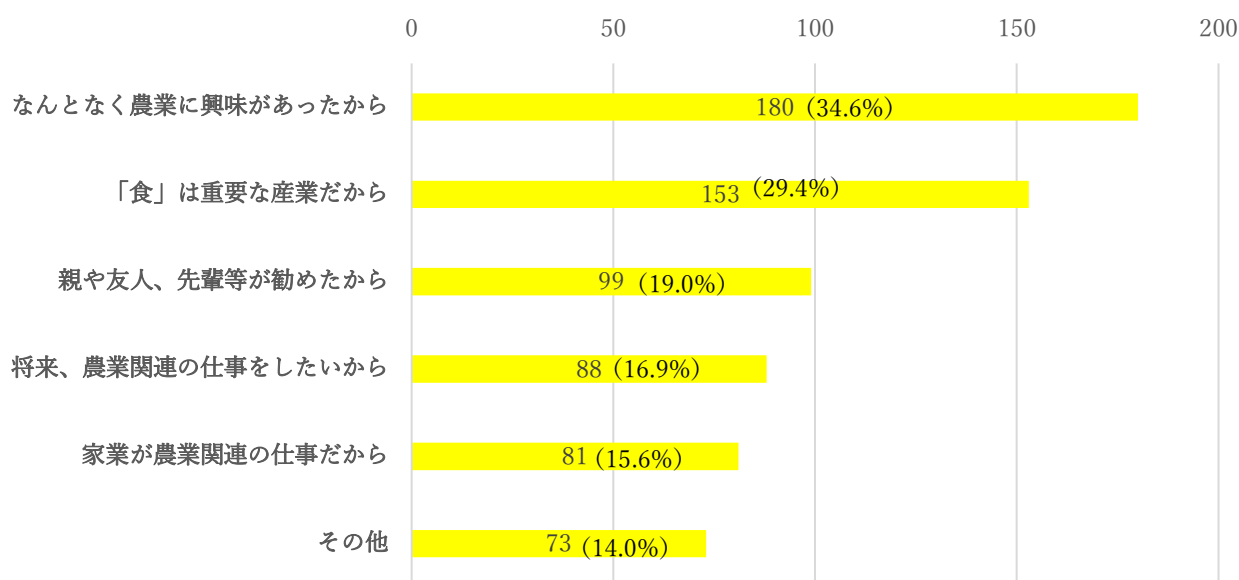
# 設問項目（目次）

1	【農業関連の学びについて】	
	(1) 農業分野を学びたいと思ったきっかけについて教えてください	4
	(2) 農業関連の学びの中で、どのような分野に興味がありますか？	5
	(3) 高等学校卒業後の進路で考えていることを教えてください	7
2	【農業分野の課題や魅力について】	
	(1) 農業分野の課題について感じることを教えてください	9
	(2) 農業の担い手が不足している原因について感じることを教えてください	10
	(3) 農業分野の仕事の魅力について感じることを教えてください	12
3	【社会福祉に関する興味・関心度について】	
	(1) 「社会福祉」という言葉のイメージを教えてください	14
	(2) あなたは「社会福祉」に興味はありますか？	15
	(3) あなたは障がい者の働き先が不足している課題を知っていますか？	16
	(4) 障がい者の働き先が不足している原因について感じることを教えてください	17
4	【農福連携に関する認知度・関心度について】	
	(1) 「農業の担い手不足」と「障がい者の働き先不足」の課題を解消させる 「農福連携事業」が注目されていることをご存知ですか？	19
	(2) あなたは「農福連携」に関して興味はありますか？	20
	(参考) 振興局別集計	21

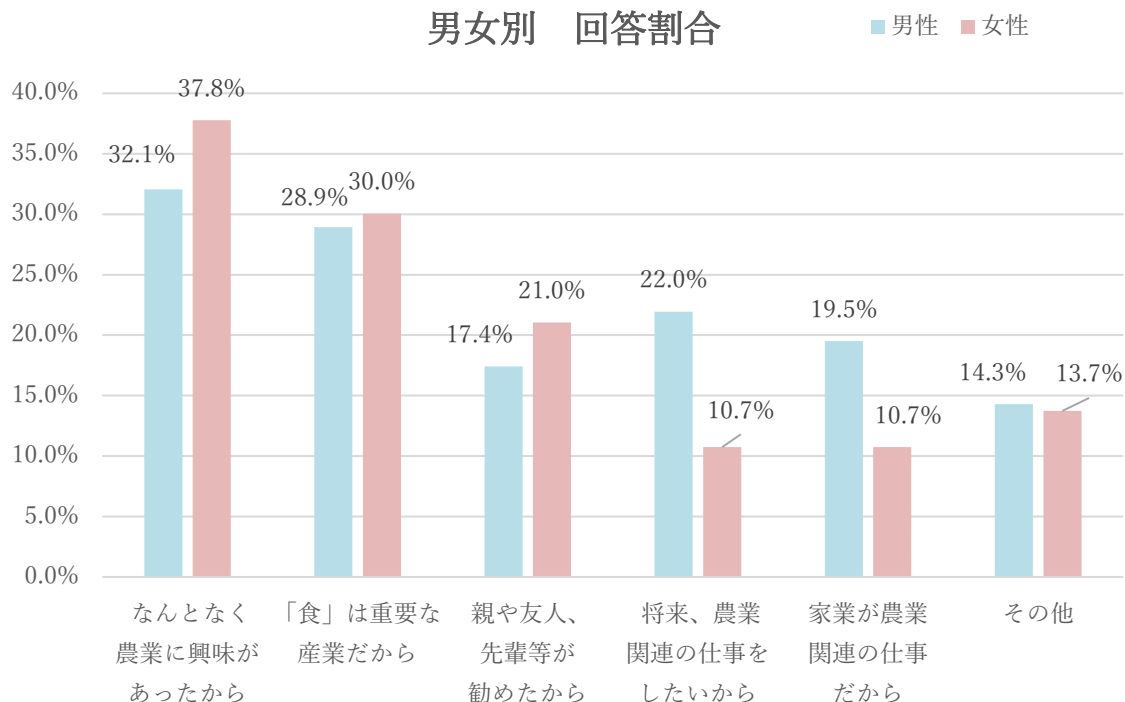
# 1 【農業関連の学びについて】

(1) 農業分野を学びたいと思ったきっかけについて教えてください <複数回答可>

全体回答数 (520名中、複数回答含め647の回答)



男女別 回答割合



高等学校進学の際、「なんとなく農業に興味があったから」という理由で進学する生徒は、若干女性の方の割合が高い結果となった。

また、「将来、農業関連の仕事をしたいから」「家業が農業関連の仕事だから」という理由で進学した生徒は男女で2倍の開きがあり、男性が回答人数の約20%に対して、女性は10%程度という結果であった。

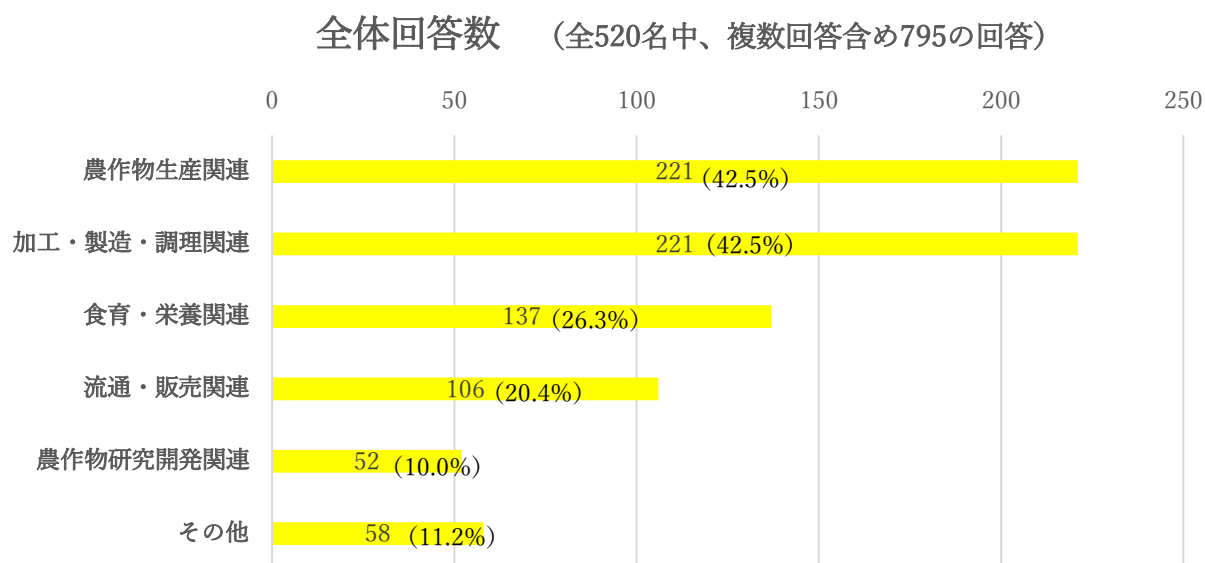
● 「その他」の回答

その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
林業関係を学ぶため	9		9	1		1	10	0	10
動物・畜産関係を学ぶため	3	1	4		3	3	3	4	7
農業には興味がない・理由はない	1		1	6		6	7	0	7
食や食品加工関係を学ぶため		1	1	2	3	5	2	4	6
家から近いから	3	1	4	1		1	4	1	5
調理・製菓を学ぶため		2	2		2	2	0	4	4
学歴・公立高校だから	1	1	2	1		1	2	1	3
人間関係や世代との関わりを学ぶため					3	3	0	3	3
祖父母が農業関連だから				2	1	3	2	1	3
福祉関連を学ぶため					3	3	0	3	3
保育関係を学ぶため		1	1		2	2	0	3	3
花卉関連を学ぶため		1	1		1	1	0	2	2
公務員になりたいため	1	1	2				1	1	2
農業を学ぶため		2	2				0	2	2
園芸を学ぶため				1		1	1	0	1
兄が通っていたから					1	1	0	1	1
自然が好きだから	1		1				1	0	1
車	1		1				1	0	1
色んな事を学ぶため	1		1				1	0	1
寮生活のため				1		1	1	0	1
(未回答)		1	1	5	1	6	5	2	7
総計	21	12	33	20	20	40	41	32	73

「その他」の回答では、「林業」「畜産」関連が上位となり、特に「林業」は全員が男性という結果であった。

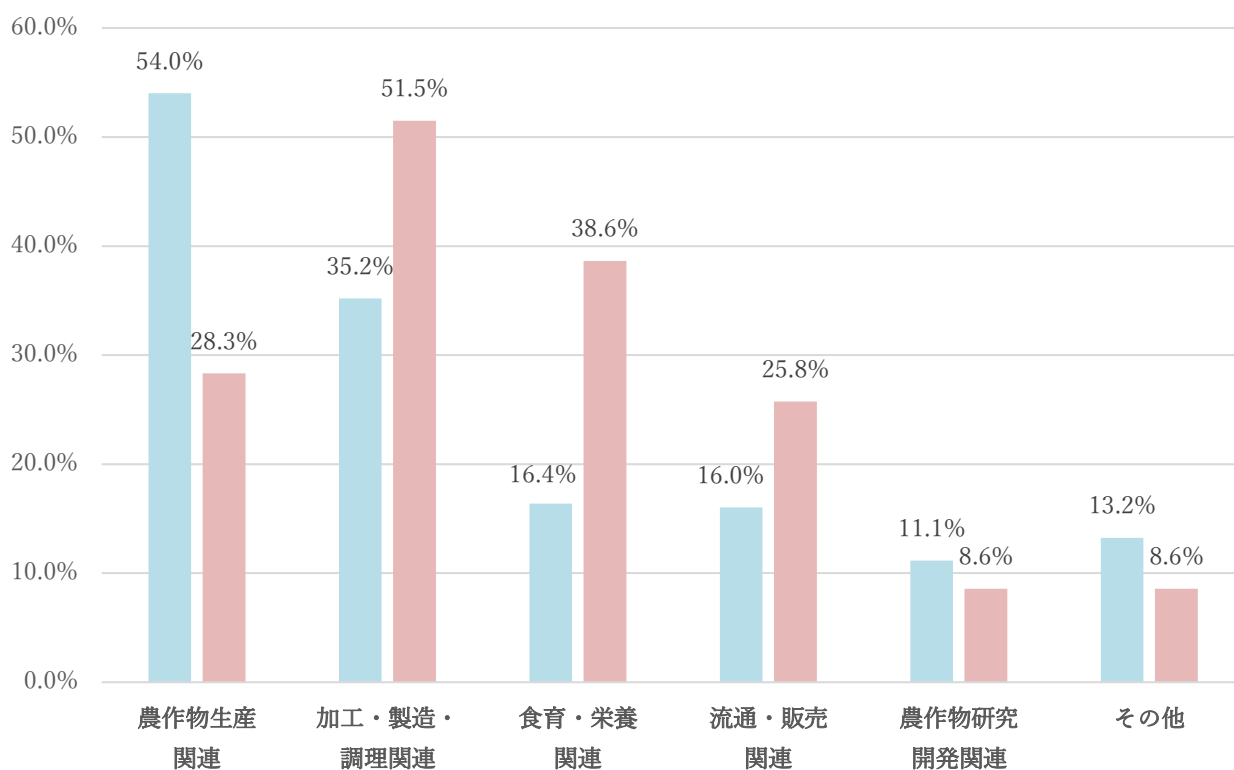
また、「食品加工」「調理」「花卉」「園芸」など農業分野に関連するキーワードも見られた。

(2) 農業関連の学びの中で、どのような分野に興味がありますか <複数回答可>



## 男女別 回答割合

■ 男性 ■ 女性



「農作物生産関連」の学びに興味を持っている生徒は、男性が54%、女性が28%と大きな差があった。反面、「加工・製造・調理関連」の学びに興味を持っている生徒は、男性が35%に対して女性が51%であった。また、「食育・栄養関連」「流通・販売関連」の学びに興味を持っている生徒は女性の方が高く、差が開いた結果となった。

### ● 「その他」の回答

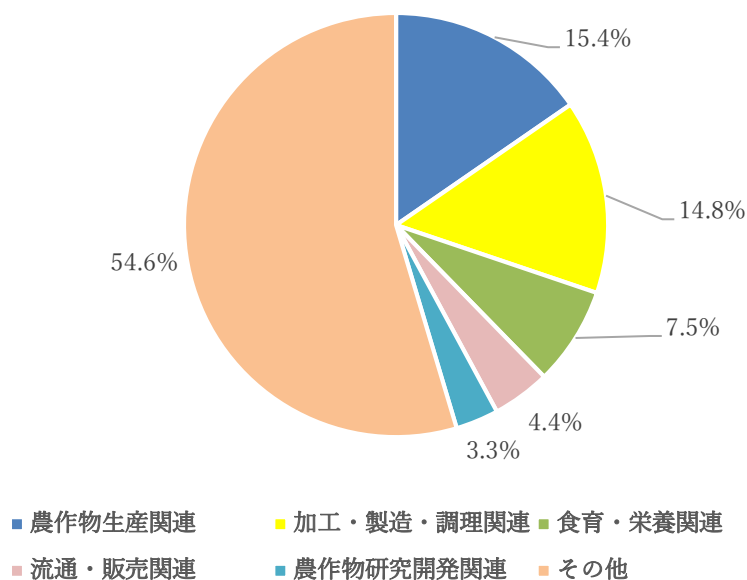
その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
酪農・畜産関連	7	5	12		4	4	7	9	16
林業関連	12	2	14	2		2	14	2	16
特になし	3		3	6	1	7	9	1	10
花卉・園芸		1	1		4	4	0	5	5
スマート農業・農業機械関連	4		4				4	0	4
保育・看護・教員		2	2	1		1	1	2	3
(未回答)		1	1	3		3	3	1	4
総計	26	11	37	12	9	21	38	20	58

「その他」の回答では、「畜産」「林業」関連が上位となり、それぞれ全体の3%（16名/520名中）の結果であった。

また、「花卉・園芸」や「スマート農業・農業機械」などの学びに興味を持っている生徒も見られた。

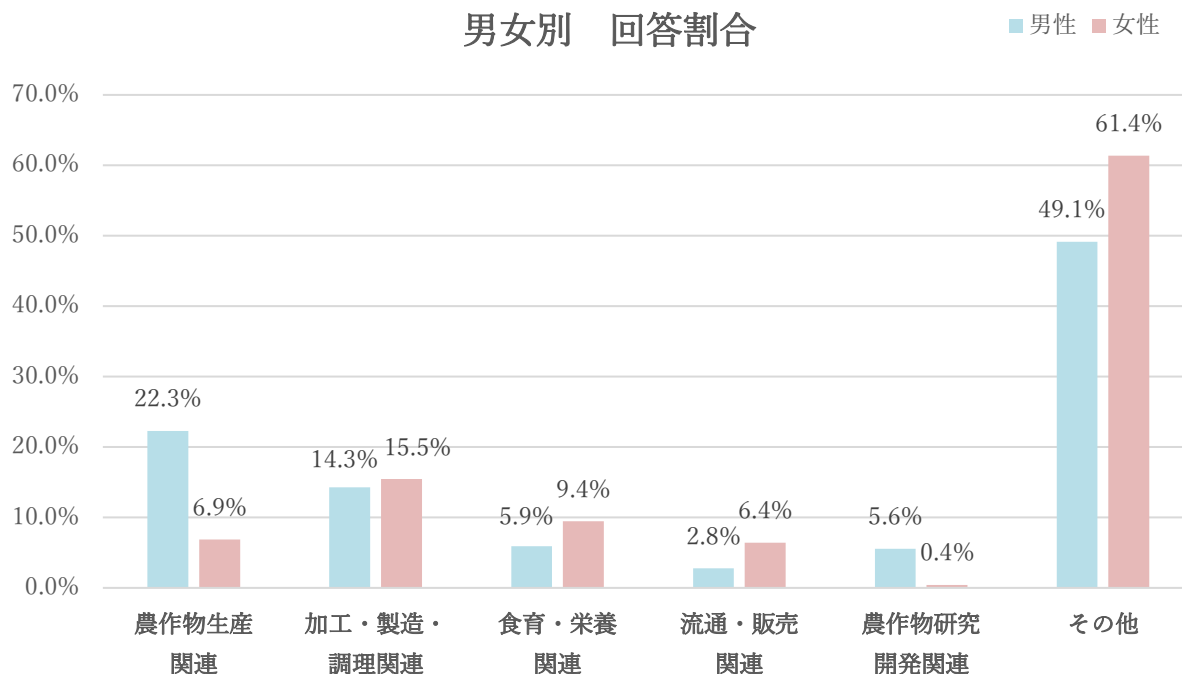
(3) 高等学校卒業後の進路で考えていることを教えてください <1つだけ回答>

全体回答数 (520名)



「その他」では林業や酪農、農業機械関連を進路に考えている生徒が一定数いるものの、半数程度は農業関連に直接関係のない進路を考えている。

男女別 回答割合



卒業後の進路で「農作物生産関連」を考えている生徒の男女比は概ね男性3：女性1だが、「加工・製造・調理関連」に男女差は見られない。

「食育・栄養関連」「流通・販売関連」はそれぞれ全体の10%以下であり、女性の方が多い結果となった。



● 「その他」の回答

その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
教員・消防士等公務員	8	5	13	6	2	8	14	7	21
福祉・介護関連	4	6	10	5	5	10	9	11	20
保育関連		8	8	1	10	11	1	18	19
理容・美容関連	1	5	6		13	13	1	18	19
看護・医療関連	1	2	3	2	13	15	3	15	18
トリマー・動物関連	3	6	9	1	5	6	4	11	15
林業関連	8	1	9	5		5	13	1	14
一般企業等就職	2	3	5	2	3	5	4	6	10
自衛隊	1	1	2	8		8	9	1	10
システム・情報・クリエイター関連	3		3	6		6	9	0	9
芸術・イラスト・デザイン・音楽関連	3	4	7	1	1	2	4	5	9
大学進学	3		3	6		6	9	0	9
建築・土木関連	2	1	3	4		4	6	1	7
酪農・畜産関連	3	3	6		1	1	3	4	7
芸能・演劇・作家・声優関連		2	2	1	2	3	1	4	5
自動車・整備士・ガソリンスタンド関連	1		1	3	1	4	4	1	5
進学	4		4	1		1	5	0	5
スポーツ関連	3		3	1		1	4	0	4
事務職・受付・窓口業務		1	1		3	3	0	4	4
専門学校進学	3		3	1		1	4	0	4
ホテル・ブライダル関係		1	1		2	2	0	3	3
金融・経済関連				2	1	3	2	1	3
歯科衛生					3	3	0	3	3
接客業		1	1	1	1	2	1	2	3
調理・製菓関連	1	1	2	1		1	2	1	3
農業関連以外	1		1	1	1	2	2	1	3
農業機械関連	2	1	3				2	1	3
医療事務関連					2	2	0	2	2
海外	1	1	2				1	1	2
空港・運送関連					2	2	0	2	2
フリーター		1	1				0	1	1
出版関連					1	1	0	1	1
測量関係				1		1	1	0	1
短大進学					1	1	0	1	1
未定	17	11	28	3	2	5	20	13	33
(未回答)		2	2	3	1	4	3	3	6
総計	75	67	142	66	76	142	141	143	284

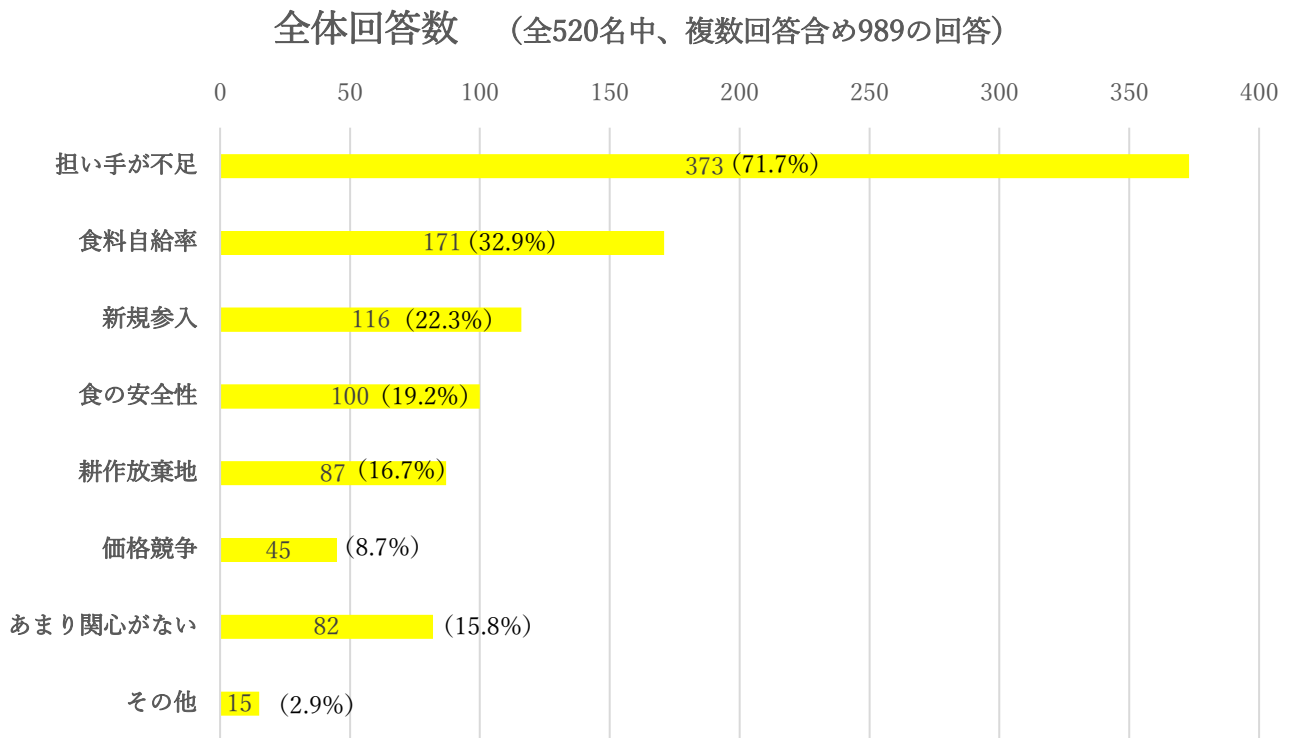
進路希望「その他」の回答では、1番多かった「公務員(21名)」の次に「福祉・介護関連(20名)」が多い結果となった。「社会・介護関連」に学年ごとに10名ずつおり、毎年、一定数の関心を持っている生徒がいると推測できる

また、農業関連では「林業」「酪農・畜産」「農業機械」などの進路を考えている生徒も見られた。

「未定」と回答した生徒は3年生5名(0.9%)に対し、2年生が28名(5.4%)であり、今後の進路がまだ定まっていない2年生を中心に農福連携へ関心を持ってもらえる可能性が示唆される。

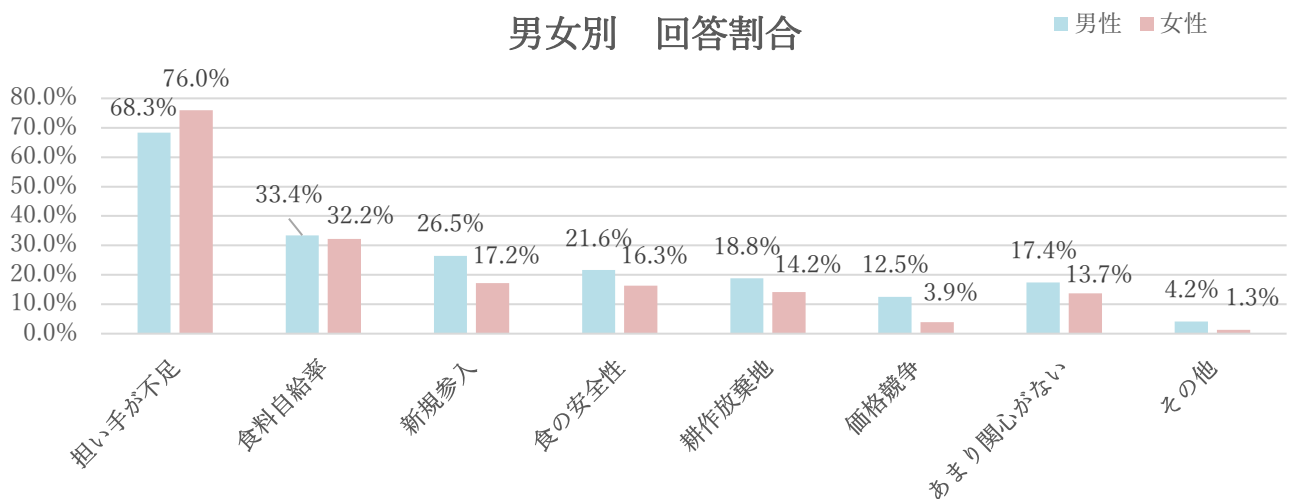
## 2 【農業関連の課題や魅力について】

### (1) 農業分野の課題について感じることを教えてください <複数回答可>



回答者の7割以上が、農業の担い手不足を課題と考えている。

「あまり関心がない」を除くと84.2%の回答があったことから、農業の課題に関心を持つ生徒の割合が高い結果となった。



どの課題についても男女差は少くない傾向だが、「新規参入するハードルが高い」と感じている生徒に男性の方が多く、起業意識の関与が一因として伺える。農福連携事業においては、就労継続支援 B 型 事業所の起業が可能であることなど、社会福祉事業の啓発は重要であると考えられる。

また、「TPPなどの価格競争」については、全体回答数の1割以下ではあるものの、課題を感じているのは男性の方が女性より約3倍高かった

● 「その他」の回答

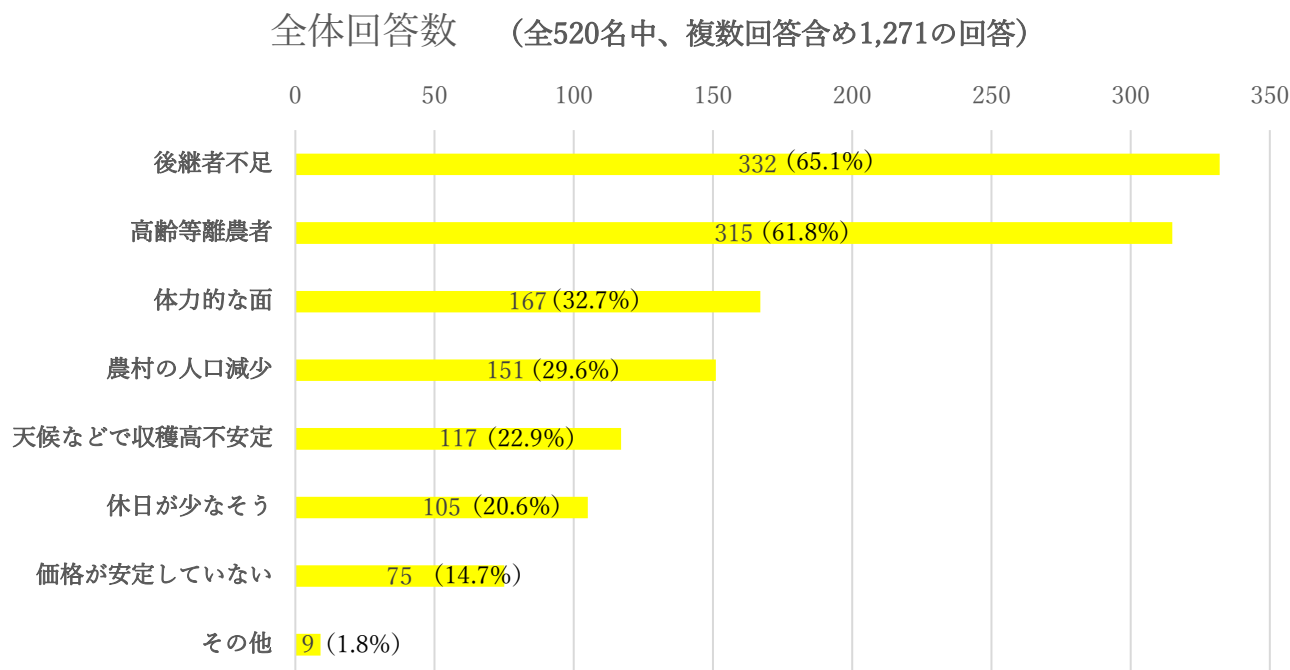
その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
飼料、肥料等の価格高騰	2		2		1	1	2	1	3
森林の在り方や担い手不足	2		2				2	0	2
補助金不足・手当が低い				2		2	2	0	2
あまり考えたことがない		1	1				0	1	1
環境変化による被害		1	1				0	1	1
農業と関わる機会が少ない				1		1	1	0	1
(未回答)				5		5	5	0	5
総計	4	2	6	8	1	9	12	3	15

「その他」の回答では、「飼料、肥料等の価格高騰」と回答した生徒が3名いた。

また、「林業の担い手不足」のほか、昨今の地球温暖化や異常気象の影響と思われる「環境変化による被害」を課題としている生徒がいた。

(2) 「農業の担い手が不足している」原因について感じることを教えてください

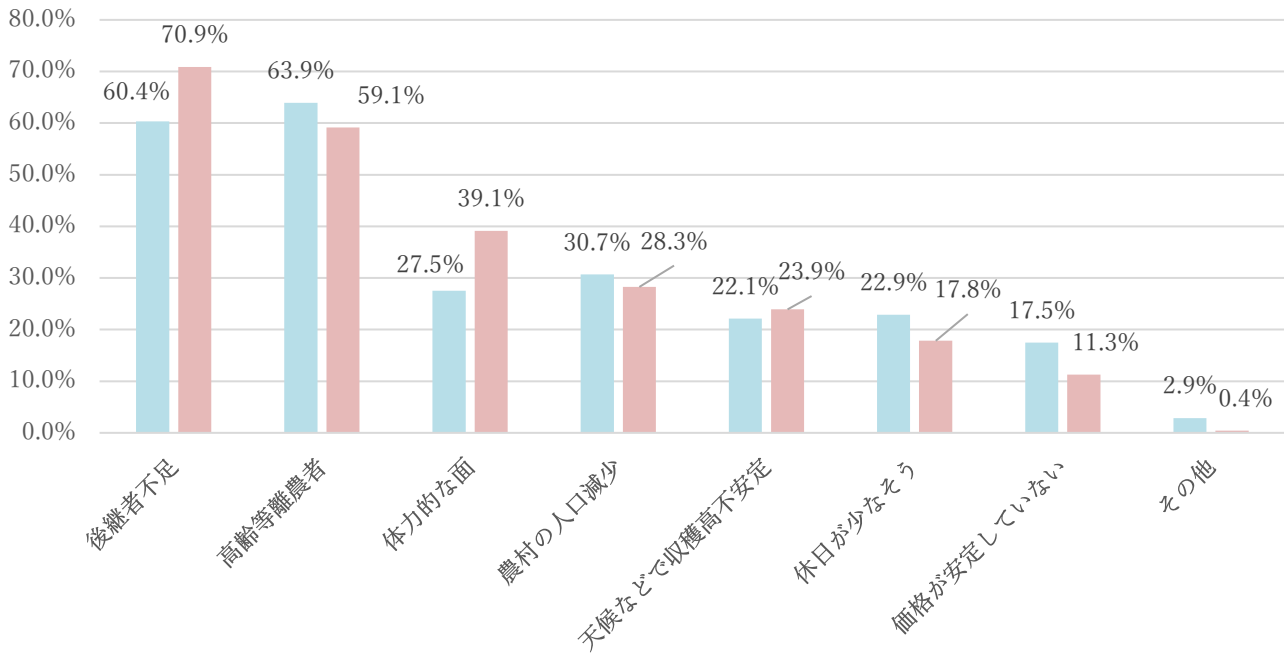
<複数回答可>



回答者の6割以上が、「後継者がなかなかいないから」「高齢による離農者が多いから」と考えている。また、「若者が都市部へ流出し、農村地域の人口自体が減少しているから」については全体の約3割が感じており、農村地域の過疎化が深刻になっている。

## 男女別 回答割合

■ 男性 ■ 女性



「後継者がなかなかいないから」と回答した生徒は、男性が 60.4%、女性が 70.9%と 1 割程度の差があった。

また、「体力的に大変そうだから」については、男性より女性の方が高く、差が開いた結果となった。

### ● 「その他」の回答

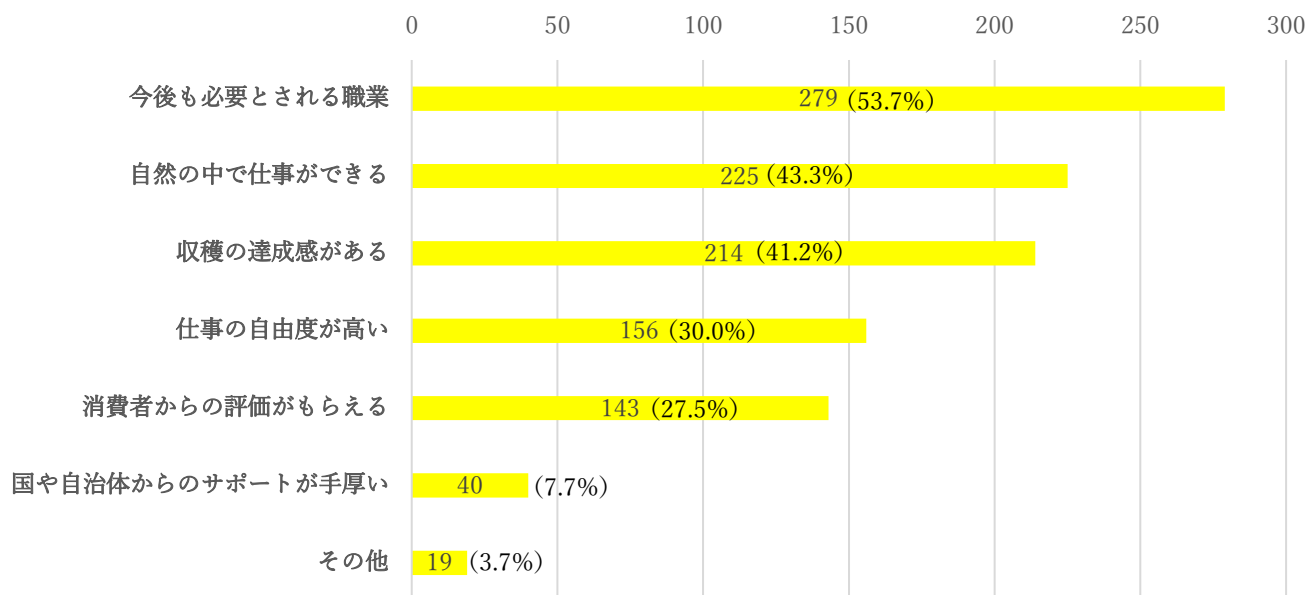
その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
昔の考えが多いから若者と関わりづらい				1		1	1	0	1
汚いなど負のイメージがある	1		1				1	0	1
給料が安いイメージ		1	1				0	1	1
農業を知る機会がない				1		1	1	0	1
わからない	4		4	1		1	5	0	5
総計	5	1	6	3	0	3	8	1	9

「その他」の回答では、「昔の考えが多いから若者と関わりづらい」「汚いなど負のイメージがある」「給料が安いイメージ」「農業を知る機会がない」など貴重な意見があった。

「昔の考えが多いから若者と関わりづらい」との意見については、若者と高齢者の縦のつながりが薄くなっている現状が示す通りとなった。世代を超え、「農業を通じてプラスイメージ」が持てるようなコミュニケーション機会の提供は欠かせないとする。

(3) 農業分野の仕事の魅力について感じることを教えてください <複数回答可>

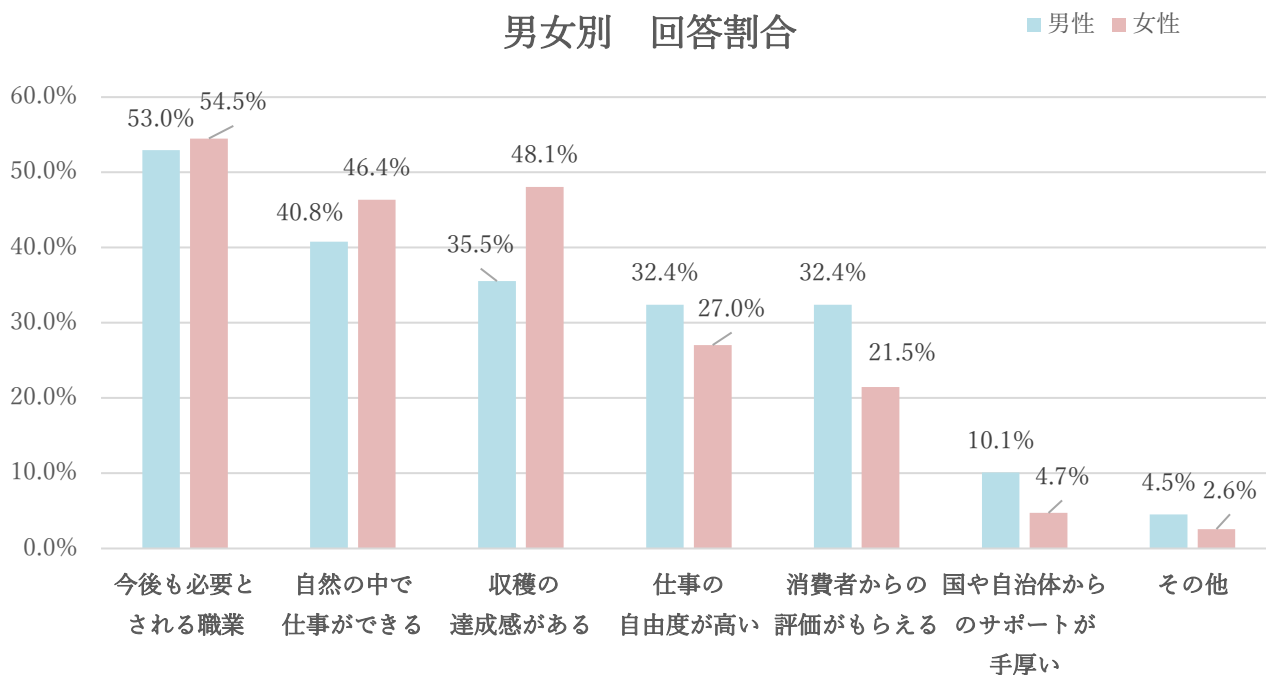
全体回答数 (全520名中、1,076の回答)



回答者の5割以上が、「今後も必要とされる職業」と考えている。

また、「自然の中で仕事ができる」については全体の43%が感じていたことから、都市部の高校生へアピールできる素材（自然の中で仕事ができる）として活用が可能である。

男女別 回答割合



「今後も必要とされる職業」と回答した生徒には男女がほとんどない。「自然の中で仕事ができる」「収穫の達成感がある」については男性より女性の方が若干高く、反面「仕事の自由度が高い」「消費者からの評価がもらえる」については女性より男性が高い結果となった。

● 「その他」の回答

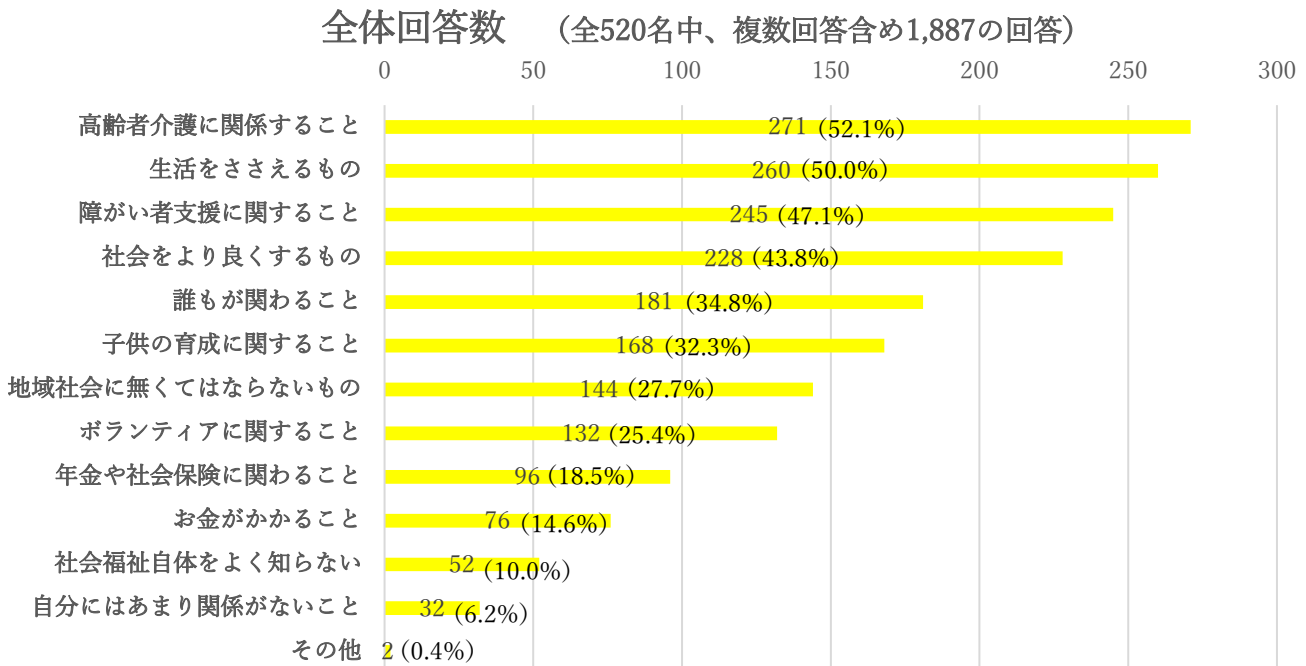
その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
自給自足、食費削減	1	2	3				1	2	3
給料が高め		1	1		1	1	0	2	2
食品の大切さが分かる		1	1				0	1	1
わからない・関心がない	4		4	2		2	6	0	6
魅力を感じない				1		1	1	0	1
(未回答)		1	1	5		5	5	1	6
総計	5	5	10	8	1	9	13	6	19

「その他」では「自給自足、食費削減」が一番多く、「給料が高め」「食品の大切さが分かる」などの回答があった。

2-(2)担い手不足の原因では、「給料が安いイメージ」との回答があったものの、北海道は他の都府県に比べ高めの年収水準であることから、給与面の周知を図ることで農業関連人材の活性化につながる可能性がある。

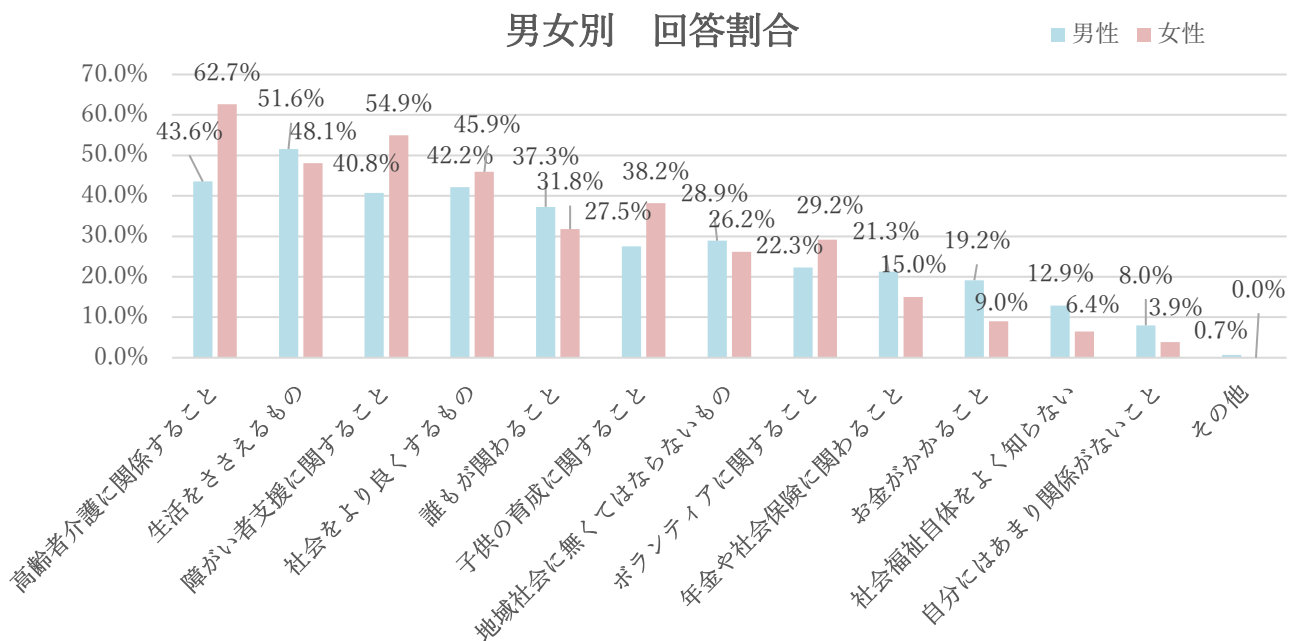
### 3 【社会福祉に関する興味・関心度について】

(1) 「社会福祉」という言葉のイメージを教えてください <複数回答可>



「高齢者介護に関係すること」「生活をささえるもの」が回答者の5割以上、次に「障がい者支援に関係すること」が47.1%の結果となった。

「よく知らない」「自分にはあまり関係がない」がそれぞれ10%以下であり、全体的に社会福祉に対するイメージを持っている生徒が多い結果であった。

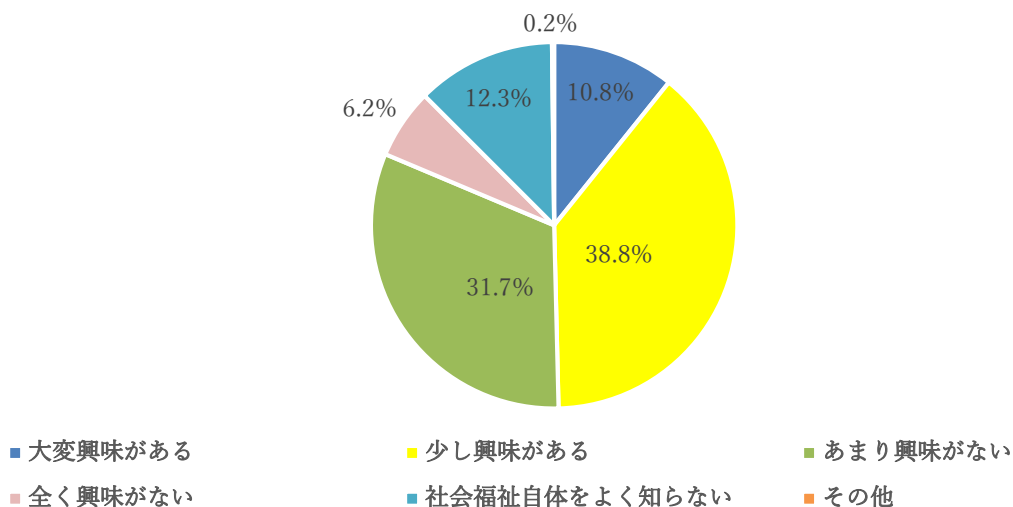


「高齢者介護に関係すること」が全体の5割以上の結果となったが、男性約4割、女性約6割と約2割の差が生じていた。

また、「障がい者支援に関係すること」「子供の育成に関係すること」についても、女性の方が1割以上高い結果となった。

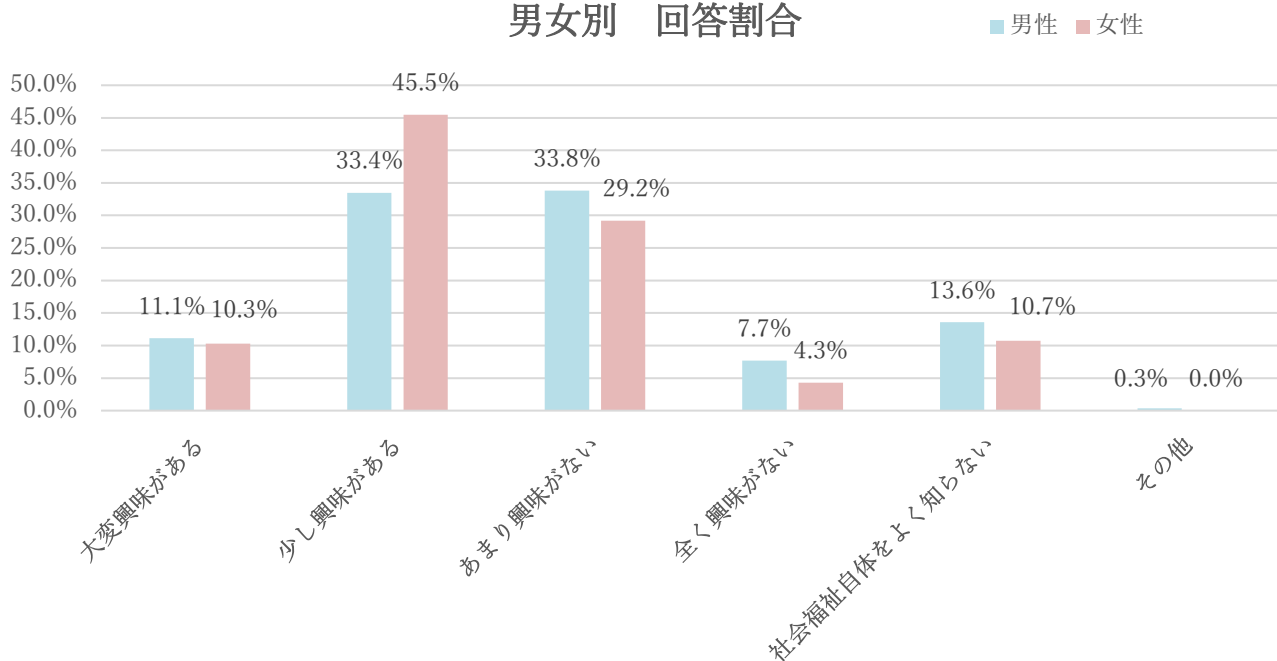
(2) あなたは「社会福祉」に興味はありますか？ <1つだけ回答>

全体回答数 (520名)



「大変興味がある」「少し興味がある」が49.6%とほぼ半数を占めた。また、「社会福祉自体をよく知らない」が全体の12%の結果であった。

男女別 回答割合



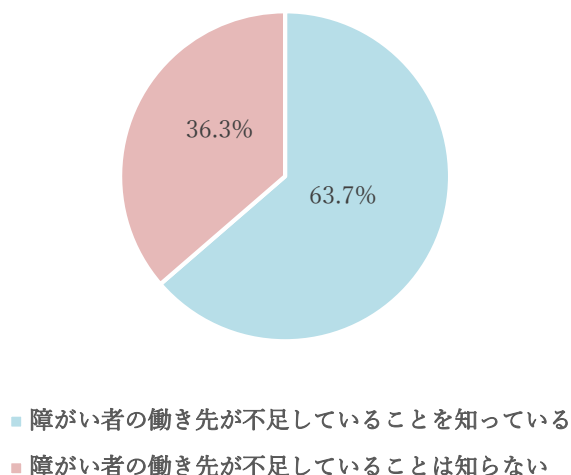
「大変興味がある」は男女ともに1割強で差がなかったが、「少し興味がある」と回答した生徒は、男性より女性の方が1割以上高かった。「大変興味がある」「少し興味がある」を合わせると、男性44.5%、女性55.8%の結果であった。



(3) あなたは障がい者の働き先が不足している課題を知っていますか？

<1つだけ回答>

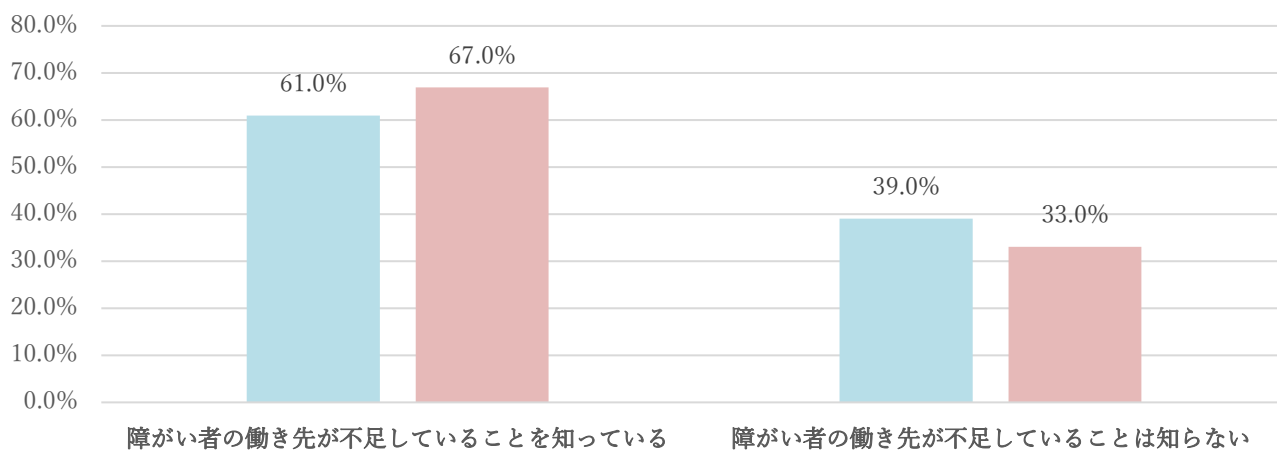
全体回答数 (520名)



回答者の6割以上(約2/3)が、「障がい者の働き先が不足していることを知っている」との結果であった。

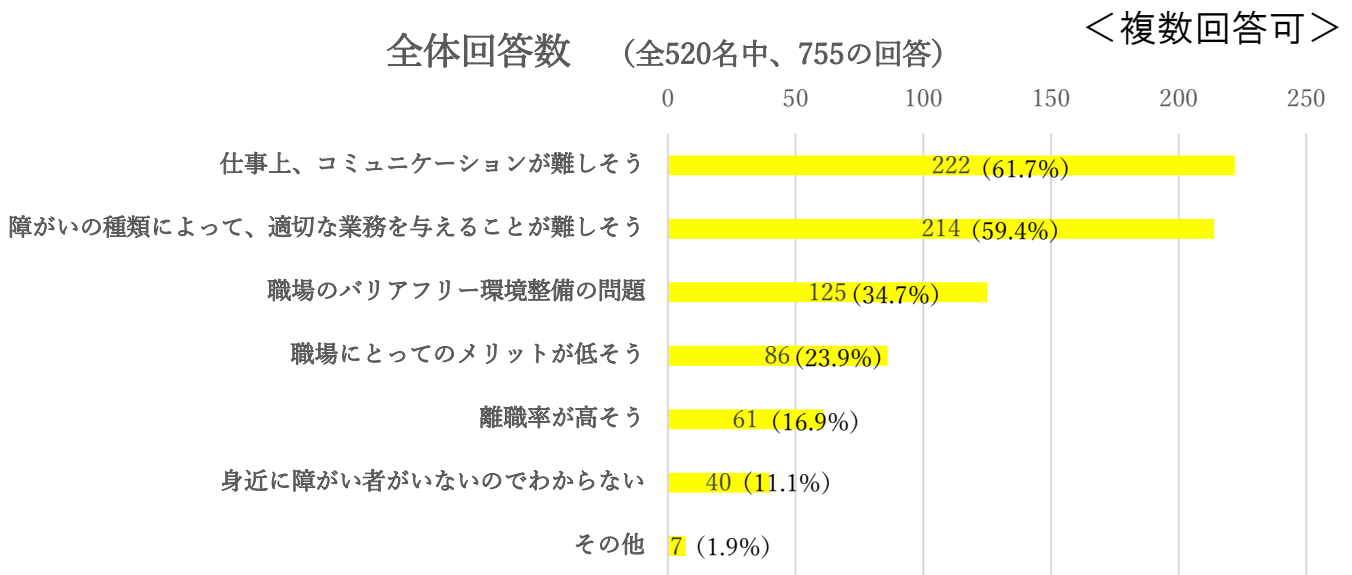
男女別 回答割合

■ 男性 ■ 女性



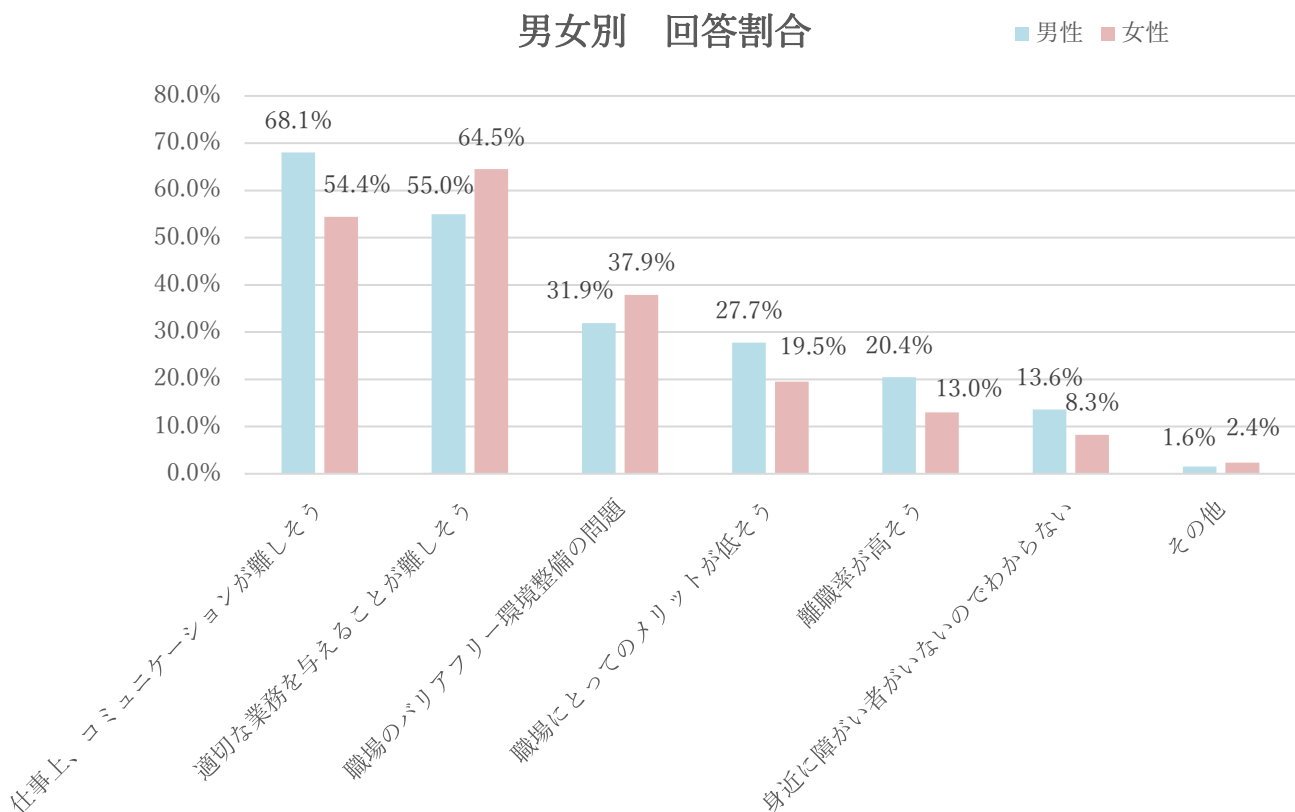
男性より女性の方が若干「障がい者の働き先が不足していることを知っている」割合が高い結果となった。

(4) 障がい者の働き先が不足している課題の原因について感じることを教えてください



「仕事上、コミュニケーションが難しそう」「障がいの種類によって、適切な業務を与えることが難しそう」が回答者の約6割が感じている結果となった。

また、その他と回答した生徒が1.9%と低く、「障がい者の働き先が不足している課題の原因について」は約9割の生徒が何かしらのイメージを持っていることが分かる結果となった。



「仕事上、コミュニケーションが難しそう」は男性の方が高く、「障がいの種類によって、適切な業務を与えることが難しそう」は女性の方が高い結果となった。

● 「その他」の回答

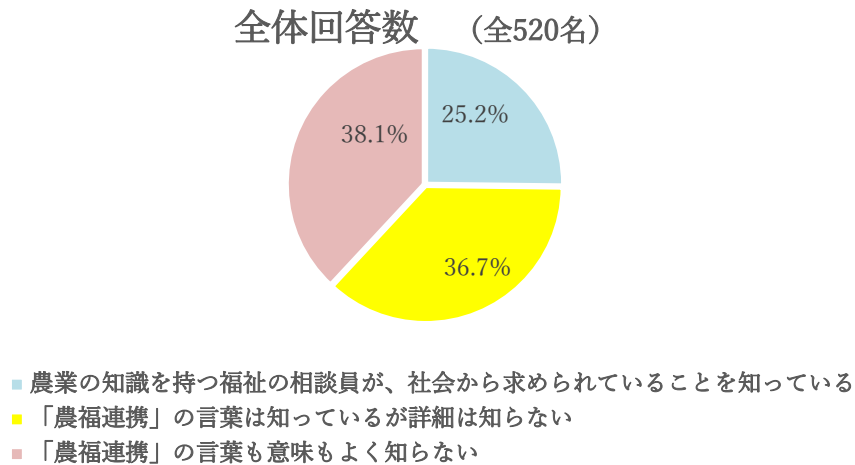
その他の理由	2年生			3年生			全体		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	合計
障害者に対する差別などがあるから		1	1	1	1	2	1	2	3
その人自身の問題ではなく、そもそもの働き先がないから		1	1				0	1	1
わかりません	1	1	2	1		1	2	1	3
総計	1	3	4	2	1	3	3	4	7

「その他」を選択した生徒は少なかったものの、「障害者に対する差別などがあるから」が一番多く、「その人自身の問題ではなく、そもそもの働き先がないから」といった回答があった。

農福連携を推進するにあたっては、「障がい者の働き先」が北海道内にどのくらいあるのか、「差別のない誰もが働きやすい環境なのか」といった現状の把握を行う必要がある。

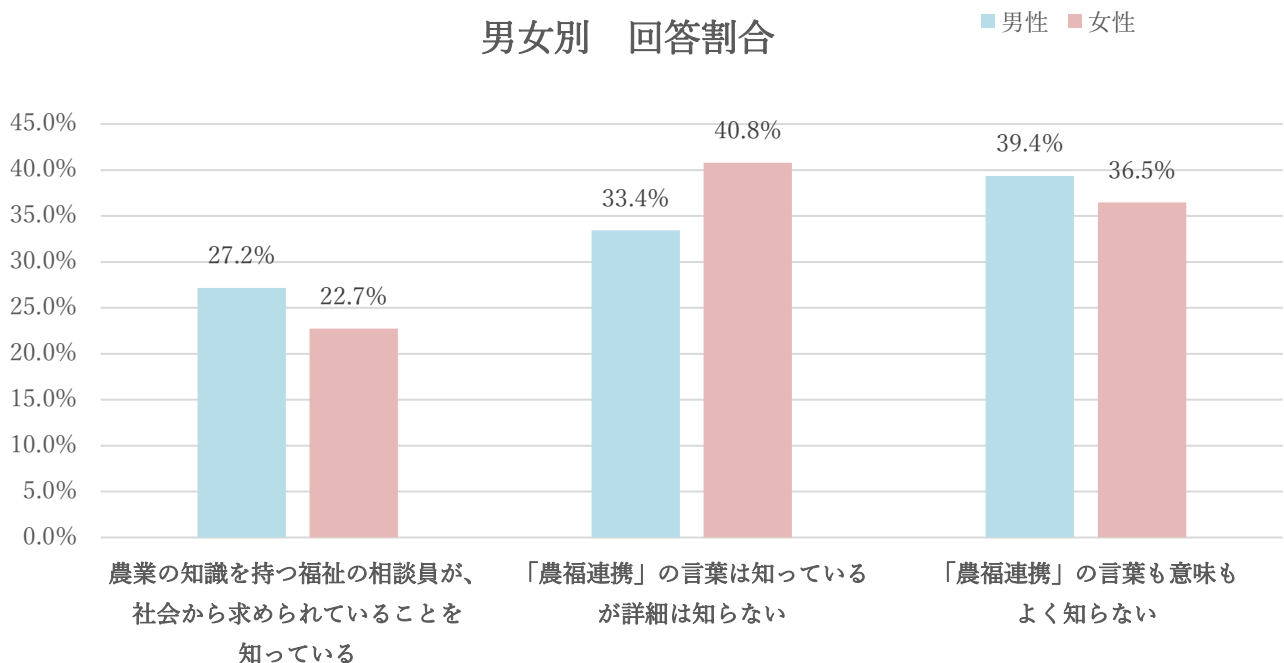
## 4 【農福連携に関する認知度・関心度について】

(1) 「農業の担い手不足」と「障がい者の働き先不足」の課題を解消させる「農福連携事業」が注目されていることをご存知ですか？ <1つだけ回答>



「農業の知識を持つ福祉の相談員が、社会から求められていることを知っている」が全体の25.2%（約4人に1人）、「農福連携の言葉は知っているが詳細は知らない」が全体の36.7%（約3人に1人）で、合わせると回答者の6割以上が「農福連携」の言葉に触れたことがある結果となった。

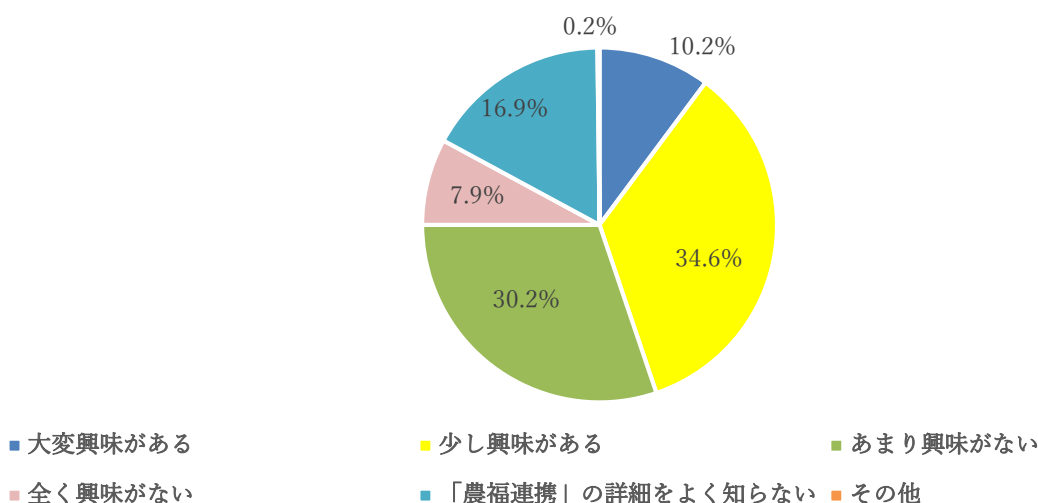
反面、「農福連携の言葉も意味もよく知らない」が38.1%であり、まだまだ周知の余地がある結果であった。



「農業の知識を持つ福祉の相談員が、社会から求められていることを知っている」は男性の方が若干高く、「農福連携の言葉は知っているが詳細は知らない」は女性の方が若干高い結果となったが、合わせると男性が60.6%、女性が63.5%であり、どちらも6割以上の生徒に認知されていた。

(2) あなたは「農福連携」に関して興味はありますか？ <1つだけ回答>

全体回答数 (全520名)

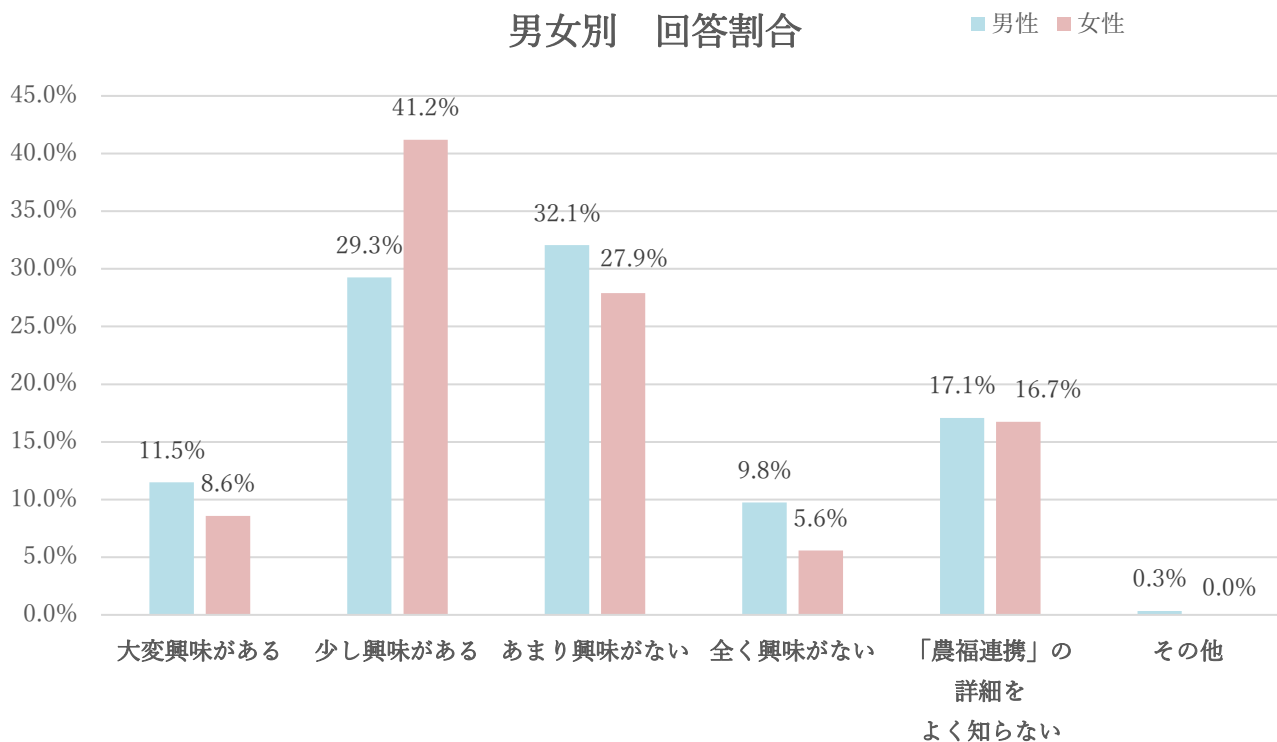


農福連携に「大変興味がある」生徒が 10.2%で、「少し興味がある」と合わせて 44.8%の結果であった。

また、「農福連携の詳細をよく知らない」が一定数いることから、今後、将来性のある職業としてさらなる周知啓発の必要性が求められる結果となった。

なお、その他 1 名は未回答。

男女別 回答割合



「大変興味がある」は男性の方が高く、「少し興味がある」は女性の方が高い結果となったが、合わせると男性が 40.8%、女性が 49.8%であり、全体的に興味を持っているのは女性の方が高かった。

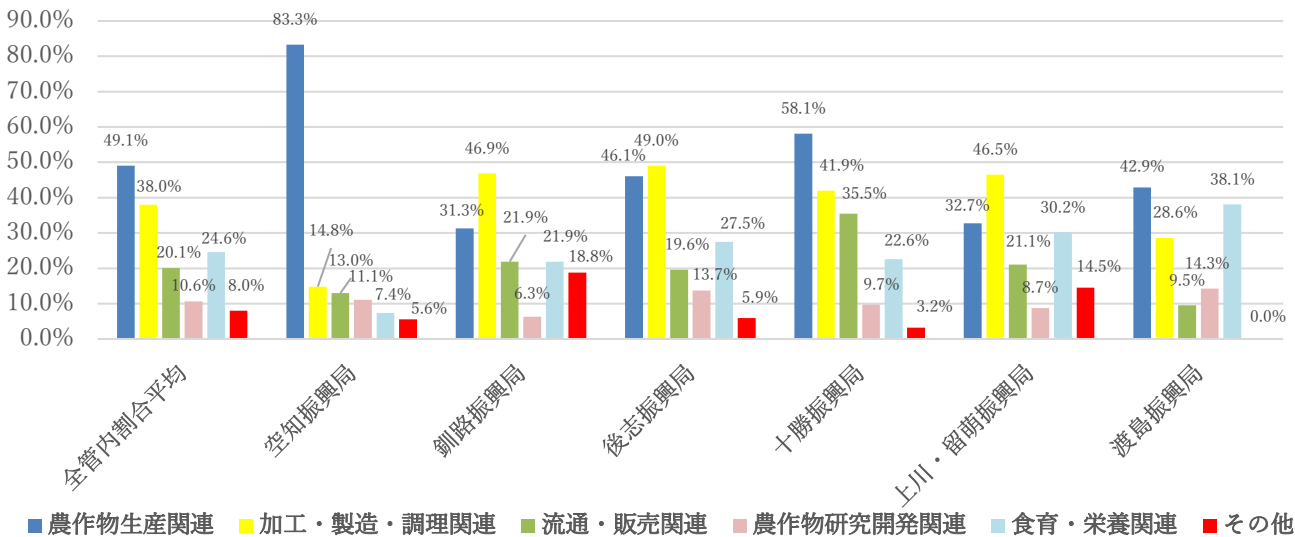
## (参考) 振興局別集計

地区	回答数
上川・留萌	275
空知	54
後志	102
釧路	32
十勝	31
渡島	21
合計	515

回答いただいた在籍高校から北海道内振興局別に分類し、設問を絞って、地域による傾向を集計した。

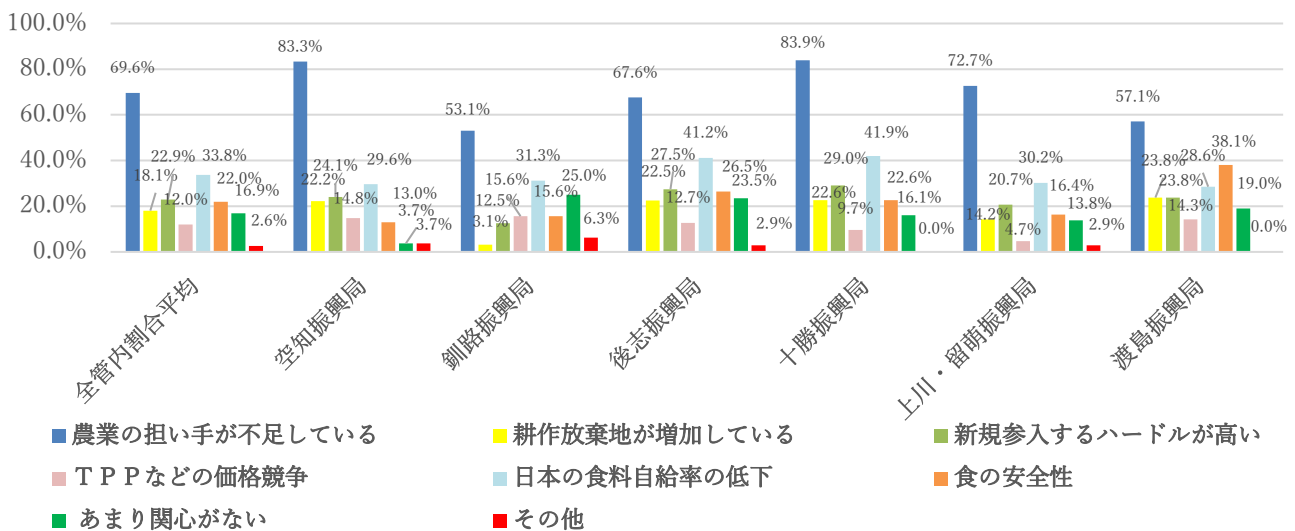
※ 学年不明、性別不明、高等学校不明は集計から除く（有効回答数515名）

### ● 農業関連の学びの中で、どのような分野に興味がありますか？（複数回答）



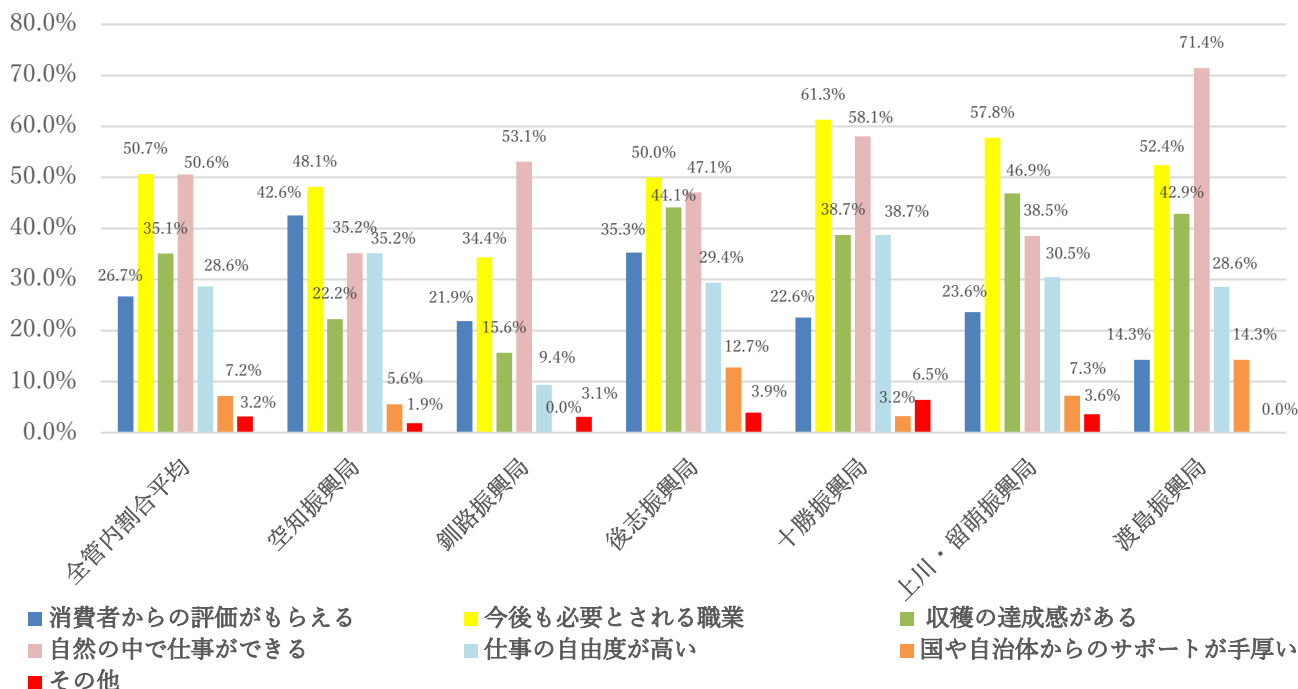
- ・ 空知振興局は「農産物生産関連」に8割以上が回答した。
- ・ 釧路振興局と上川・留萌振興局は興味分野の傾向が似ている（「その他」は林業や酪農が占める）。
- ・ 十勝振興局と渡島振興局の傾向は似ているが、「流通・販売関連」に興味が高いのは十勝振興局。
- ・

### ● 農業分野の課題について感じることを教えてください（複数回答）



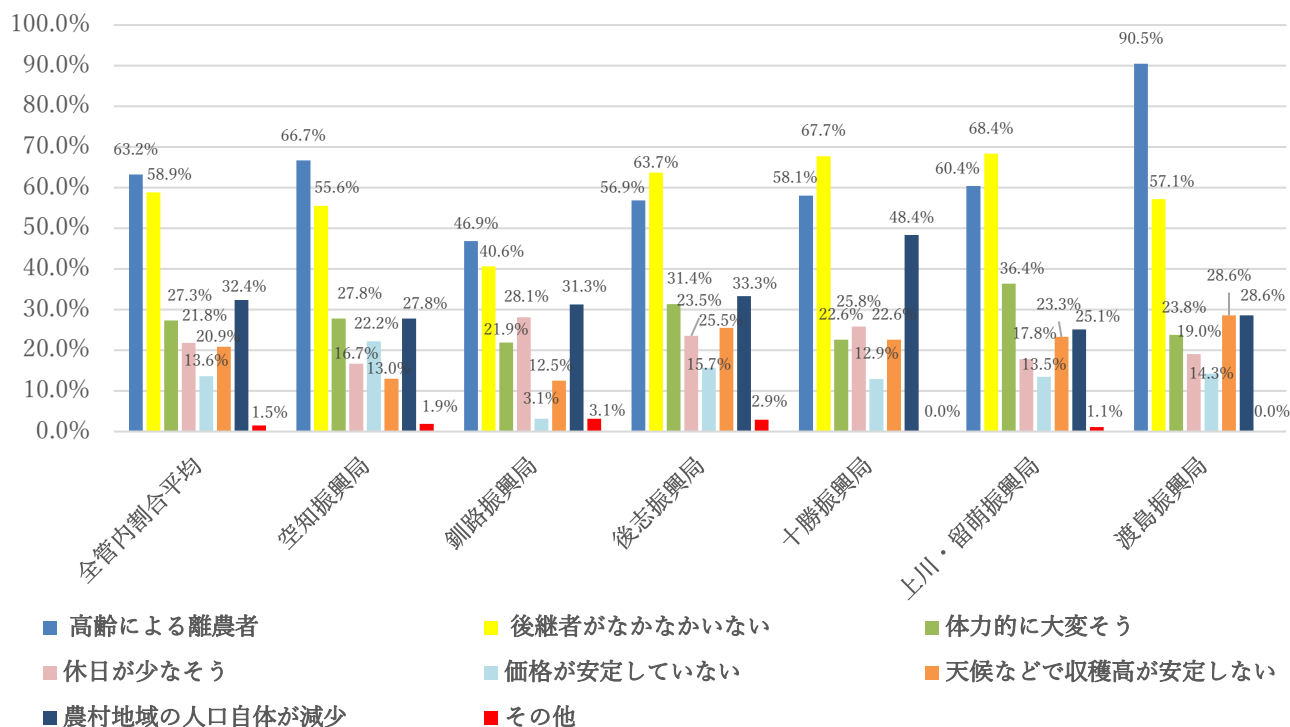
- ・ どの管内も「農業の担い手が不足している」が一番多く回答、空知と十勝振興局は8割を超えた。
- ・ 釧路振興局では「耕作放棄地の増加」を課題としている意識が極めて低かった。
- ・ 渡島振興局は「食の安全性」が高い傾向となった。

● 農業分野の仕事の魅力について感じることを教えてください (複数回答)



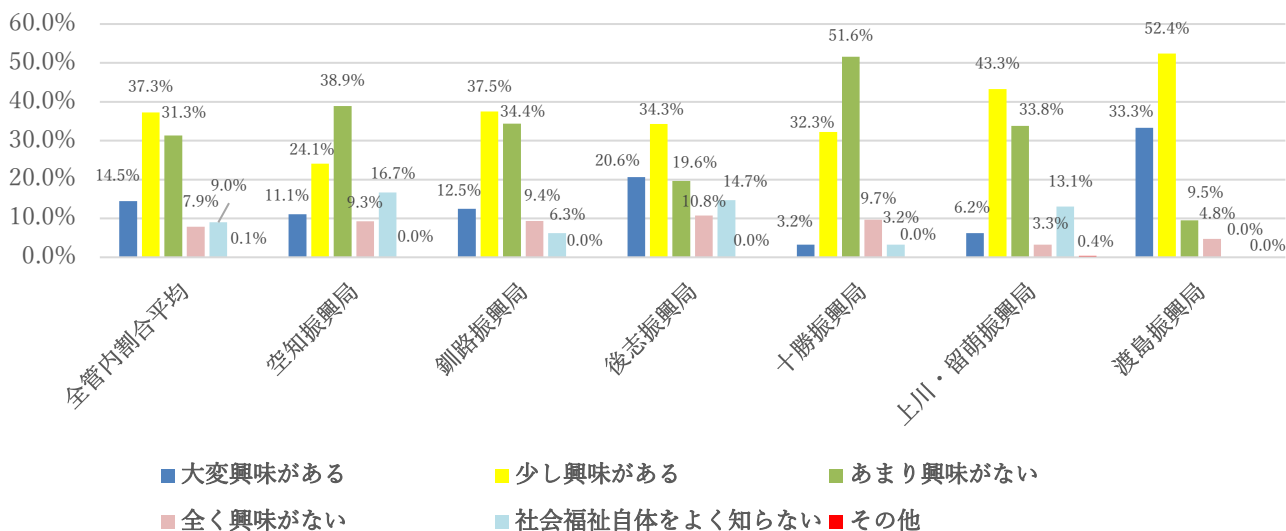
- ・ 「消費者からの評価がもらえる」は、空知振興局が高く渡島振興局が低い回答であった。
- ・ 釧路と渡島振興局では「今後も必要とされる職業」より「自然の中で仕事ができる」が高かった。
- ・ 釧路振興局は「収穫の達成感がある」「仕事の自由度が高い」が低い傾向となった。

● 後継者不足の課題の原因について感じることを教えてください (複数回答)



- ・ 「高齢による離農者が多いから」は渡島振興局が最も高く、9割以上の回答があった。
- ・ 「後継者がなかなかいないから」は、釧路振興局が若干低い他に大きな差は見られなかった。
- ・ 「休日が少なそうだから」は、酪農のイメージから釧路振興局が最も高かった。

● あなたは「社会福祉」に興味はありますか？ (1つだけ回答)

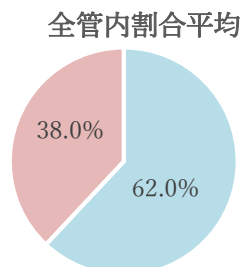


- ・ 「大変興味がある」「少し興味がある」は渡島振興局が高く、合わせて85.7%の回答であった。
- ・ 「あまり興味がない」「全く興味がない」は十勝振興局が高く、合わせて61.3%の回答であった。

● あなたは障がい者の働き先が不足している課題を知っていますか？

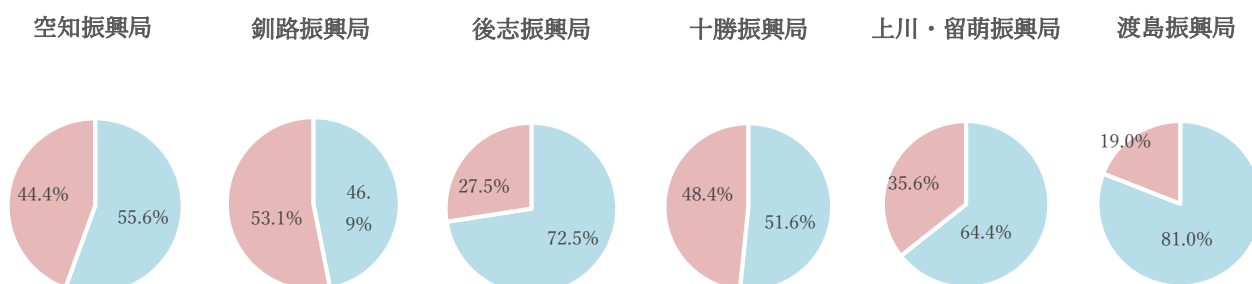
(1つだけ回答)

- 障がい者の働き先が不足していることを…
- 障がい者の働き先が不足していることは…



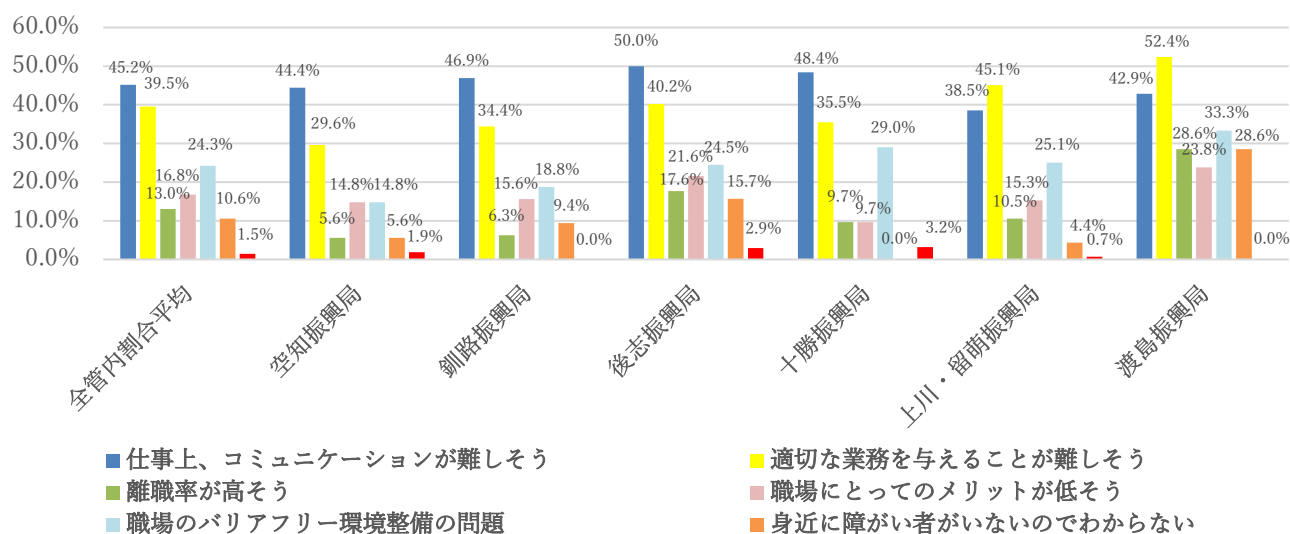
- ・ 「障がい者の働き先不足を知っている」は渡島振興局が高く、8割以上認知されていた。
- ・ 後志振興局、上川・留萌振興局は、6～7割程度の認知度であった。
- ・ 「障がい者の働き先不足は知らない」は釧路振興局が高く、半数以上に認知されていなかった。
- ・ 十勝振興局は釧路の次に認知度が低く、約半々の結果であった。

<振興局別の割合>





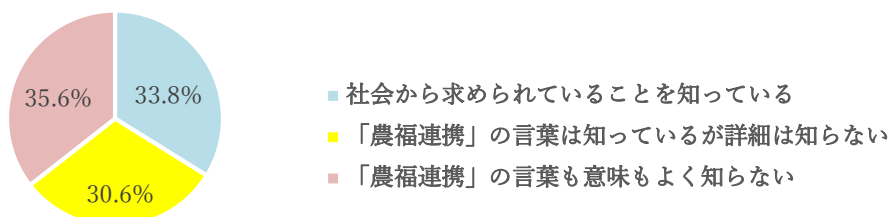
● 障がい者の雇用先不足の課題の原因について感じることを教えてください  
(複数回答)



- ・ 「仕事上、コミュニケーションが難しそう」がどの管内でも約4～5割の回答があった。
- ・ 上川・留萌と渡島管内は「適切な業務を与えることが難しそう」が一番多い回答であった。
- ・ 「離職率が高そう」は、後志と渡島振興局で高く、他管内との差が大きかった。
- ・ 「職場のバリアフリー環境整備の問題」は、空知振興局が最も低かった。
- ・ 「その他」の回答では、「差別」というキーワードが3つの振興局から見られた。

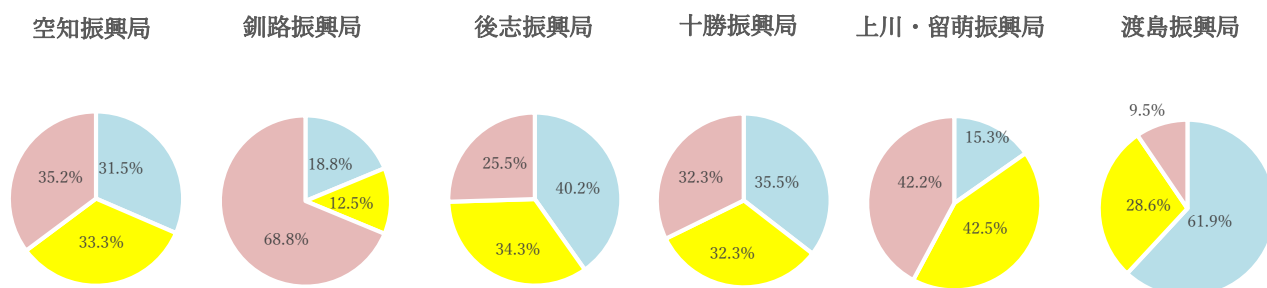
● あなたは「農福連携事業」が注目されていることをご存知ですか？  
(1つだけ回答)

全管内割合平均

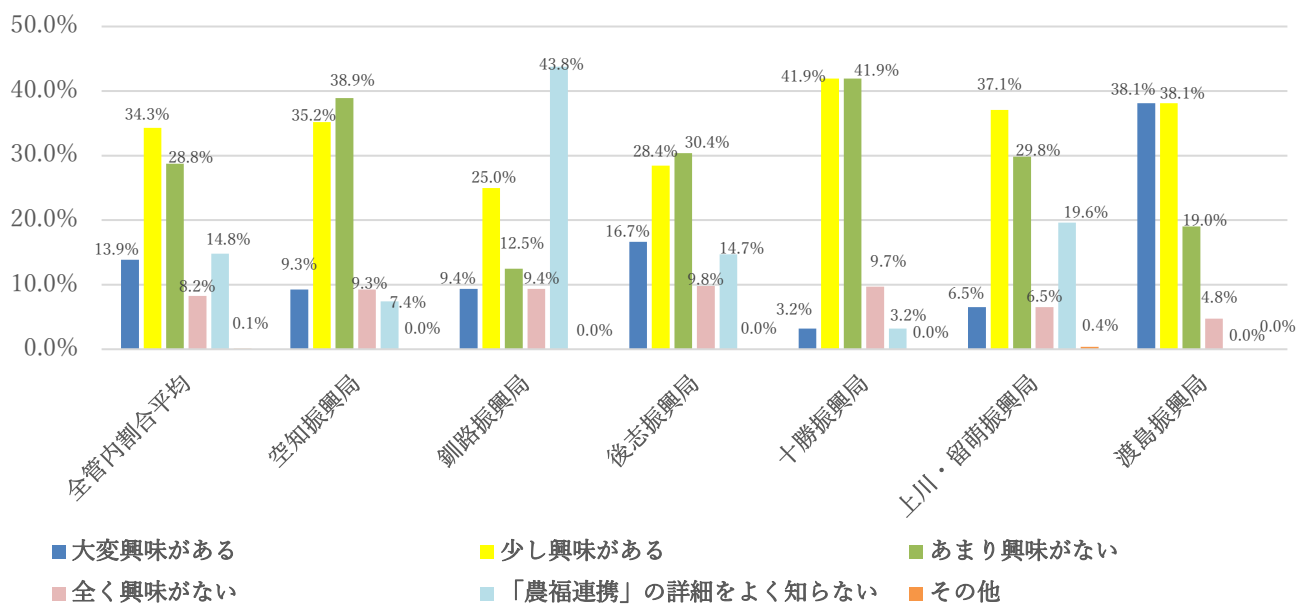


- ・ 渡島振興局では、約9割が「農福連携」の言葉に触れていた。
- ・ 「農福連携の言葉も意味もよく知らない」は釧路振興局が高く、約7割に認知されていなかった。
- ・ 空知と十勝振興局は、それぞれの割合に近い傾向であった。

<振興局別の割合>

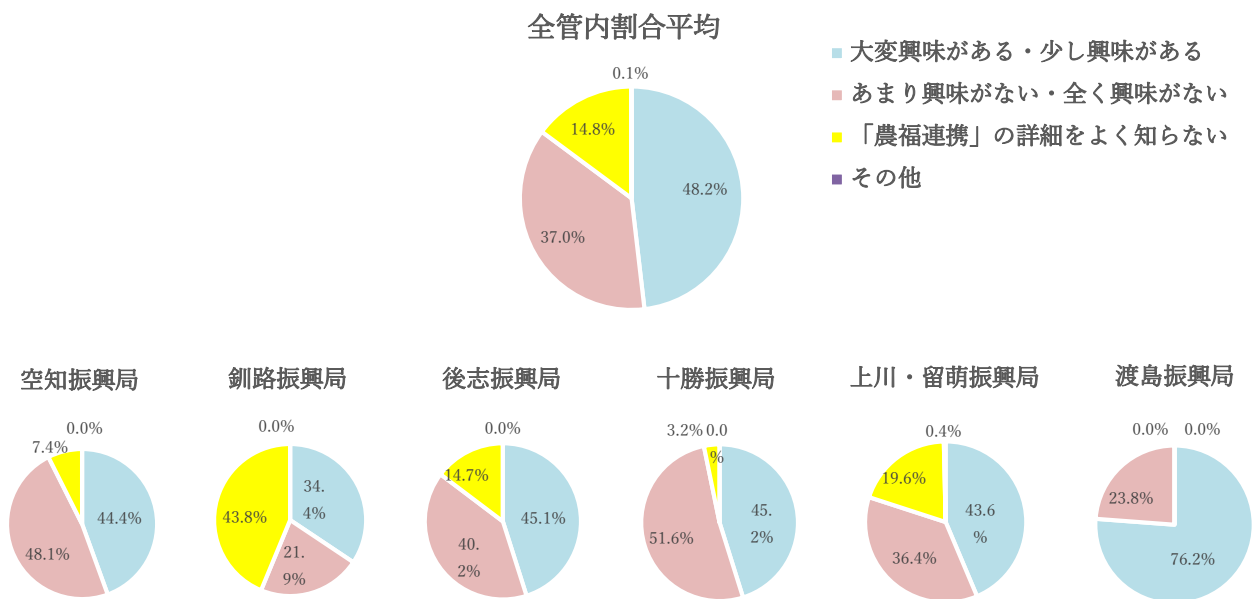


● あなたは「農福連携」に関して興味はありますか？（1つだけ回答）



- ・ 渡島振興局では「大変興味がある」が極めて高く、約4割の回答があった。
- ・ 「農福連携の詳細をよく知らない」は釧路振興局が最も高く、次に上川・留萌振興局であった。

<振興局別の割合> ※「興味あり」「興味なし」「知らない」の3つに分類



# まとめ

## 1 【農業関連の学びについて】

- ① 将来、農業関連の仕事をしたと考えている割合は男性の方が高く、漠然とした興味で農業高校へ進学した割合は女性の方が高かった。
- ② 男性は農作物生産関連、女性は加工・製造・調理・流通・販売関連の学びに関心が高い。
- ③ 高校卒業後に農業関連の進路を考えている生徒は半数前後であった。福祉関連に興味を示している生徒が各学年10名と一定数いることがわかった。(全回答数の3.8%)

## 2 【農業分野の課題や魅力について】

- ① 農業の担い手不足を感じている生徒は71.7%で、学年・性別にかかわらず高かった。
- ② 新規参入を課題と考えている生徒が22.3%おり、起業に関連する教育を取り入れることでさらなる関心が高まる可能性がある。
- ③ 担い手不足の原因は、「後継者がいないこと」「高齢化」「農村地区の人口減」の回答が多かった。
- ④ 農業の魅力は「自然の中で仕事ができるから」との回答が43.3%であった。

## 3 【社会福祉に関する興味・関心度について】

- ① 社会福祉のイメージは、「高齢者介護」「生活をささえる」「障がい者支援」がそれぞれ約半数を占めたが、特に「高齢者介護」「障がい者支援」については女性の割合が高かった。
- ② 社会福祉に興味を持つ生徒は「大変興味がある」「少し興味がある」合わせて49.6%と約半数であったが、女性が55.8%と男性44.5%より高い結果であった。
- ③ 障がい者の雇用不足を知っている生徒は63.7%と全体の2/3弱であった。
- ④ 障がい者雇用の課題の原因は、「仕事上、コミュニケーションが難しそう」「障がいの種類によって、適切な業務を与えることが難しそう」が約6割の結果となった。

## 4 【農福連携に関する認知度・関心度について】

- ① 「農福連携」の言葉に触れたことがある生徒は、61.9%でまだまだ認知拡大が可能。
- ② 「農福連携」への興味は「大変興味がある」「少し興味がある」と合わせて44.8%であった。特に女性は49.8%と回答数の半分の結果であった。
- ③ 「農福連携の詳細を知らない」が16.9%であったため、さらなる周知が必要である。

## (参考) 振興局別集計

- ・ 空知振興局 農産物生産関連の学びに興味がある生徒が83.3%、次に興味が多かった加工・製造・調理関連が14.8%であり、大きな差があった。  
また、農業分野の課題意識が一番高い地域であった。  
社会福祉に興味がある生徒の割合が35.2%で他管内と比較し一番低かった。  
農福連携の認知や興味については全道平均に近い割合であった。
- ・ 釧路振興局 酪農・畜産関連の学びに興味がある生徒が2割を占めた。  
耕作放牧地の増加という課題についての意識は低かった。  
自然の中で仕事ができることに魅力を感じている生徒が多かった反面、収穫の達成感や仕事の自由度、休日のイメージについては一番低い結果であった。  
また、障がい者の雇用不足を知らない生徒が53.1%おり、他管内より高かった。  
農福連携の認知度は低く、68.8%の生徒が言葉に触れたことがなかったと回答したと同時に、農福連携に興味があると答えた割合が一番低かった。
- ・ 後志振興局 農産物生産関連の学びと加工・製造・調理関連の学びに興味がある生徒の割合がほぼ同じであった。  
社会福祉に興味がある生徒が54.9%で高く、障がい者の働き先不足の課題を知っている生徒についても72.5%と高い結果であった。  
農福連携の認知や興味については全道平均に近い割合であった。
- ・ 十勝振興局 流通・販売関連の学びに興味を持つ割合が他管内と比較し一番高かった。  
農業の担い手不足を感じている割合だけではなく、農村地域の人口減少を感じている割合についても他管内より高い結果であった。  
社会福祉に興味がある生徒の割合が35.5%で空知振興局の次に低かった。  
農福連携の認知や興味については全道平均に近い割合であった。
- ・ 上川留萌振興局 他管内にはいなかった林業関連に興味を持つ生徒が管内回答者の6%を占めたほか、酪農・畜産関連や花卉・園芸の学びに興味がある生徒がいた。また、加工・製造・調理関連の学びに興味がある生徒が、農産物生産関連の学びに興味がある生徒より多かった。  
社会福祉に興味がある生徒の割合が49.5%で回答数の約半数を占めた。  
農福連携の言葉を知らない生徒の割合が、釧路振興局の次に高かった。
- ・ 渡島振興局 農作物生産関連とほぼ同じ割合で食物・栄養関連に興味がある生徒が多く、農業分野の課題として食の安全性を回答した割合が他管内と比較し一番高かった。  
自然の中で仕事ができることに魅力を感じている生徒は71.4%、高齢による離農者を課題に感じている生徒は90.5%であった。  
社会福祉に興味がある生徒の割合が非常に高く、85.7%が興味を持っていると回答し、障がい者の働き先不足を認知している生徒についても81.0%であった。  
農福連携は90.5%の生徒が言葉に触れたことがあり、興味を持っている生徒は76.2%の結果であった。

# 謝 辞

この度は、文部科学省委託事業「地域活性化のための農福連携人材育成事業」アンケートにご協力いただき厚く感謝申し上げます。

今回の農業科を対象とした高校生へのアンケート調査では、北海道農業が抱える課題や魅力、社会福祉に対するイメージなどを確認できただけでなく、農福連携を取組むにあたり多少なりとも興味を持っている高校生が回答者の半数近くいることが分かりました。

また、北海道の課題に真摯に向き合い、肯定的なご意見をお持ちの高校生が多いことも分かりました。

この結果をもとに、本学として農福連携の今後のあるべき形を模索しつつ将来の人材育成に貢献していきます。